

III. 刊行報告書抄録

第148集 清洲城下町遺跡X・朝日遺跡X

清洲城下町遺跡は愛知県清須市に所在する遺跡で、本報告は平成12年度・平成13年度と平成29年度・平成30年度に実施された発掘調査の成果報告である。

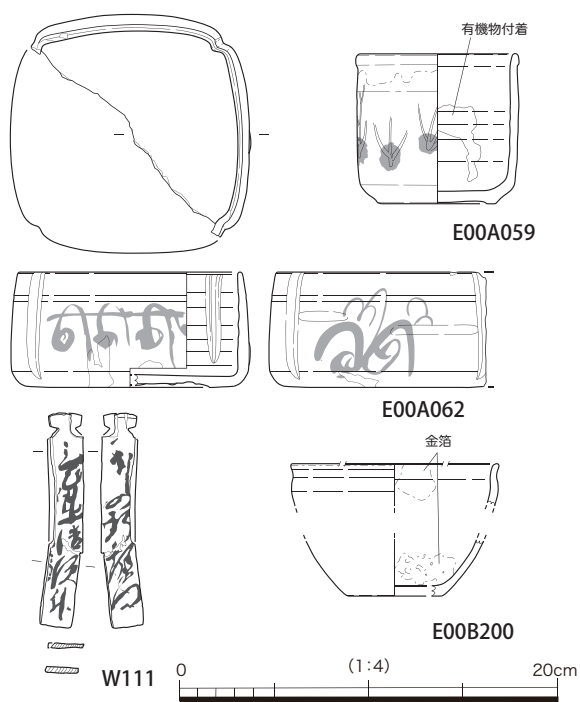
本丸天守台跡の北東約220mにある00B区(御園地区)では、中世の自然河道跡があり、室町時代から溝・土坑などからなる集落が営まれ、戦国時代末には清須川(旧五条川)の西岸堤防となるSX01が築かれ、後期清須城の時代には、SX01から東の河道部に張り出した石垣SW01を伴う方形状土台SX04が形成され、SX01とSX04に囲まれた南東側に溝により方形にめぐる区画が形成された。この中の溝SD01より「三斗付□上清須外」「ほしの新右衛門」の墨書が残る荷札木簡が確認され、この地点が後期清須城に伴う船着場である可能性が高いことを指摘できた。

また後期清須城の中堀と外堀の間にある南部地区では、16世紀後半の城下町Ⅱ-2期から溝・土坑などからなる居住域が形成され、16世紀末～17世紀初頭の城下町Ⅲ-1期後半から方形状にめぐる区画溝が多数掘削された。続く17世紀初頭の城下町Ⅲ-2期には南北に井戸が列状に分布することから、東西に長い区画が南北に並ぶ町屋域が形成され、これらの区画変遷が近世城郭の街道整備などを反映した現象であることを指摘した。また名古屋鉄道本線の北側にある01区では、溝SD03より出土した柿経・卒塔婆などの木製品から、16世紀末～17世紀初頭における墓域を伴う寺院跡の区画と推定した。(蔭山誠一)

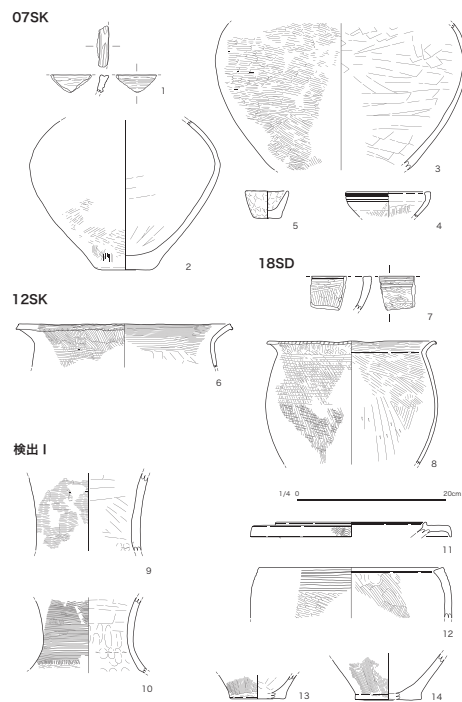
朝日遺跡は愛知県清須市・名古屋市西区に所在する東海地方最大の弥生時代集落で、本報告は令和元年度に調査した国指定史跡貝殻山貝塚に西接する21㎡の報告である。

調査区南東隅では史跡貝殻山貝塚をめぐる弥生時代中期中葉の環濠(内環濠)の北肩を検出した。さらに調査区の北西端では弥生時代前期の土坑を確認している。

さらに昭和20年に米軍が撮影した航空写真で調査区周辺を詳細に検討したところ、上記の弥生時代中期中葉の環濠が従来言われる南集落まで伸びるのではなく、史跡貝殻山貝塚の東側を東端として直径約250mの範囲で完結してしまう可能性が高いことを指摘した。(樋上昇)



清洲城下町遺跡出土遺物実測図(1:4)



朝日遺跡出土遺物実測図

報告書抄録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき あさひいせき							
書 名	清洲城下町遺跡 朝日遺跡							
副 書 名								
巻 次	X							
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第148集							
編著者名	蔭山誠一、鬼頭 剛、堀木真美子、杳名貴彦、武部真木、樋上 昇							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2021年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
きよすじょうかまちいせき 清洲城下町遺跡	あいちけん きよす し 愛知県清須市 きよす ほか 清洲他	23233	210002	35度 12分 36秒	136度 50分 19秒	2000.12.11～ 2001.3.30 2002.1.7～ 2002.2.27 2017.7.18～ 2017.9.1 2018.6.12～ 2018.10.12	4,400㎡	総合治水対策特定河川事業に伴う発掘調査
あさ ひ い せき 朝 日 遺	あいちけん きよす し 愛知県清須市 にしなかながほり 西田中長堀	23233	210001	35度 13分 04秒	136度 51分 03秒	2019.12.2～ 2019.12.13	21㎡	新川西部流域下水道事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
清洲城下町遺跡	城館 集落	鎌倉時代・ 室町時代・ 戦国時代・ 江戸時代	石垣・柱穴列・井戸・ 土坑・溝・自然流路		土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・小皿・常滑産壺・施釉陶器・漆碗・柱材・木簡・柿経・卒塔婆・曲物・桶・下駄・箸・茶臼・白・砥石・五輪塔・鉄鍬・刀子・釘・トリベ・鉄滓		「三斗付口上清須外」・ 「ほしの新右衛門」 墨書木簡出土	
朝 日 遺 跡集落		弥生時代 前期 中期	土坑 環濠・溝・土坑		弥生土器		貝殻山貝塚をめぐる 弥生時代中期の内環 濠を確認	
文書番号	清洲城下町遺跡：発掘届出(12埋セ第129号・2000.9.8) 通知(12教生第216-28号・2000.9.29) 終了届・発見届・保管証(12埋セ第222号・2001.3.30) 鑑定結果通知(12教生第216-28号・2001.5.28)、発掘届出(13埋セ第126号・2001.11.6) 通知(13教生第36-22号・2001.11.26) 終了届・発見届・保管証(13埋セ第170号・2002.2.28) 鑑定結果通知(13教生第36-22号・2002.3.27)、発掘届出(29埋セ第25号・2017.6.9) 通知(29教生第1063号・2017.6.19) 終了届・発見届・保管証(29埋セ第65号・2017.9.6) 鑑定結果通知(29教生第2037号・2017.9.25)、発掘届出(30埋セ第9号・2018.4.20) 通知(30教生第483号・2018.5.9) 終了届・発見届・保管証(30埋セ第74号・2018.10.19) 鑑定結果通知(30教生第2788号・2018.11.22) 朝日遺跡：発掘届出(3 1 壘第8 6 号通知(31教生第2551号) 終了届・発見届・保管証(31埋セ第100号) 鑑定結果通知(31教生第3521号)							
要約	清洲城下町遺跡：清須城中堀の東からの五条川に隣接する櫓跡と船着場跡、中堀と外堀の間にある武家屋敷跡・寺院跡と町屋跡と推定される遺構と出土遺物を確認した。今後の清須城とその城下町を考える上で貴重な資料になるものと思われる。 朝日遺跡：弥生時代前期の土坑1基と中期中葉の大溝ほかを確認した。このうち中期中葉の大溝は、史跡貝殻山貝塚を中心とする居住域をめぐる二重の環濠のうち、内側の環濠にあたる。							

